



送料(第1号) 本誌日発行  
 定価 1冊 3,200円 年 38,400円  
 読者誌(第2号) 年  
 発行所 東京 保険研究所  
 〒100-0001  
 東京都千代田区千代田1-1-1  
 電話 03(3376)3331  
 F.A.X 03(3376)7125  
 振替 00190-6-70360  
 編集兼印刷発行人 島田 隆夫  
 支 店 北海道、東北、東京、  
 局 中国、九州  
 印刷 保険研究所印刷部



逢沢 一郎氏(述)

交通事故を考える国会議員  
の会長

### 飲酒運転の撲滅に努力を

私共の会では、ここ数年精力的に交通事故を無くしていくといった問題の調査をして参りました。一時は交通事故で年間1万人以上の方が命を落としていましたが、最近では7000人を割り込むところまで改善しております。そのことは確かに評価ができます。しかしそれにしても、交通事故でこれだけ多くの方が亡くなっていることは大問題だといわなくてはなりません。それもひき逃げ、そして今日のメインテーマであり、これから引き続き大きなテーマとして取り上げなければならぬ“飲酒運転”での事故が後を絶たない現状があることを大変憂えています。我々は皆様からのご批判、そして現状を厳しく受け止め積極的に対処・対応をしていかなければなりません。私どもの「考える会」も、飲酒運転の撲滅を大きなテ

マとして取り上げ今後も努力を重ねて参ります。

アメリカ、カナダ、一部ヨーロッパにおいては、「アルコールイグニッション・インターロック」が、次第にまたある意味では急速に普及しつつあります。そしてその普及を支える法的な整備も相当前進をしています。そのように報告を聞いております。わが国も、積極的に北米、あるいはヨーロッパの動きを受け止める時期が来ました。正直言ってもっと早く対応すべきであった、遅かったかなと反省もしています。そうした経緯や問題意識の中で本日のイベントが開催されたことを報告致します。

私は福岡での痛ましい追突事故のことが頭を離れません。あの事故で車が海へ落ちて、幼い3人の小さい命が奪われてしまいました。全ての日本国民にあの衝撃的な事件の記憶がまだ残っており、その後の裁判、裁判官の判断についても、大きな社会的な関心を呼んでいます。

議員の皆様、また、行政府の皆様、関係者の皆様と共にいままで以上に飲酒運転を撲滅するという課題に積極的に取り組むことを、改めて確認させていただいて、挨拶とさせていただきます。

— 3月25日の飲酒運転根絶へのプレゼンテーション & デモンストレーションでの挨拶から—